

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 第4回 学校運営協議会及び学校評価部会		
開催日時	令和6年2月29日(木)		
開催場所	保土ヶ谷支援学校 共同学習室		
出席者	令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 10名(本校校長を含む) 令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会事務局教職員 9名		
次回開催予定日	今年度は終了しました		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 川島 結子 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
<p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を見せていただいた。一年間充実した取組をしていただいたことがうかがえる。学校の苦労がしのばれる。委員の皆様にも協力いただいた。感謝申し上げる。 本日は1年間の取組の評価と来年度の取組について話し合う。前半は今年度の取組の評価をしていただき、後半で重点課題について話し合うこととしたい。 今年度の振り返りと来年度については、令和6年度以降の4年間の計画策定するタイミングなので、学校の取組についてもご意見をいただきたい。 <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ご多用の中出席いただき感謝申し上げます。 今年度はコロナの制限がなくなり、教育活動が以前に戻った。プール学習等やることができた。以前とは少しずつ形を変えて活動を増やしているところである。 明日から3月になる。8日に高等部・分教室の卒業式、翌週の15日には小中学部の卒業式を行う。また、4月には新入生を迎える。89名の入学予定になっている。学校全体の児童生徒数は今年度より少し減るか。にぎやかで活気あふれる学校になっていく。その中で来年度は創立49年、翌年に50周年を迎える。 教員不足が全国的に続いている。本校も同様の状況にあり、充実した活動を目指していたが、活動に制限もあったかもしれない。そのような中、地域の協力もいただけて活動が行えた。来年度は厳しい状況が続く。周りに教員免許持っている人がいたらぜひご紹介をいただきたい。 本日は、本校の活動の報告をさせていただくので、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたい。 <p>3 出席者及び会成立の確認 (事務局：副校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> A委員は遅れて来られると思われる。他の方はいらしているので会は成立している。 			

4 資料確認、流れ説明（事務局：副校長）

- ・資料9は誤字訂正したものを再配付している。4年間のミッションも配っている。この後資料の説明をしていく。進行は会長に願います。

5 議題「年度末評価・報告」

（会長）では、まず学部・グループの説明から願いたい。

①学部

〈小学部〉（教頭）

- ・まず、交流活動を中心に説明する。今年度権太坂小と境木小と交流することができた。低学年は境木小と高学年は権太坂小と交流するという整理を今年したので、来年度はこれを継続していきたい。
- ・農園活用部会の活動の一環として横浜市スポーツ協会の方たちに来ていただき風あげを実施した。次年度も農園活用部会と連携した活動を行っていきたい。

〈中学部〉（中学部リーダー）

- ・境木中学校支援級との交流では、これまでの作品交流に加えて中学校の生徒に本校に来てもらっての作業交流を行った。来年は本校が出向く交流も行えるとよい。
- ・自治会館でのクリスマスツリーの飾りつけを今年も行い、民生委員の方にも活動を見ていただいた。地域の方々にご協力いただいた。

〈高等部〉（高等部リーダー）

- ・他学部の「教科指導内容表」「年間指導計画」等を参考に生徒の実態に応じて年間指導計画の必要箇所を修正し日々の授業に活用した。引き続き系統的な指導ができるよう、必要に応じて「教科指導内容表」の内容の見直しと、「年間指導計画」への反映及び活用を行っていく。
- ・人権については、「生徒の呼称」「分かりやすい提示」など具体的な行動指針を教員間で共有し、人権に配慮し、日々の授業を行った。次年度以降も引き続き「生徒の呼称」の徹底を行うとともに、分かりやすい授業づくりを行っていく。

〈舞岡分教室〉（教頭）

- ・進路学習・情報の3年間の学習内容の検証・修正を行った。家庭科のシラバス作成も行った。今後も毎年、シラバスの検証を行い、学習内容の確認を行っていく。他教科のシラバスの作成も検討する。業務の効率化にもつながった。
- ・高校職員の出前授業やポッチャ交流を新たに実施し、生徒理解を進めた。小集団での交流を進める中で、障害理解を図っていく。

〈横浜平沼分教室〉（教頭）

- ・防災教育の内容を整理した。理科と社会に混在していたものを整理し防災は理科で扱うこととした。また、従来の水平訓練と、垂直訓練（津波対応）を今年度行った。両方を継続していきたい。

- ・高校1年生とのポッチャ交流会を初めておこなった。高校と分教室双方のねらいを明確にし、年間行事として高校のクラス単位での交流を定着させたい。

②グループ

〈管理運営グループ〉（管理運営グループリーダー）

- ・平沼分教室の説明にもあったが管理運営でも避難訓練の話をする。屋内待機・放送機器故障・余震ありの設定で行った。専門家の先生の指導をいただきながら実施した。今後は反省をもとに災害の備えや非常時の対応を見直し、次年度のマニュアルや訓練実施計画に反映させていきたい。

〈教育企画グループ〉（教育企画グループリーダー）

- ・4年間の目標でもあった「教科指導内容表」を作成した。これにより小中高の縦のつながりを意識して授業を実施していくことが期待できる。
- ・出席簿と指導要録が電子化されたことに対し、マニュアルを整備した。指導要録はこのあと3月に作成するので、マニュアルを生かして事故防止に努めたい。
- ・人権研修会はすでにお話ししているが、8月に実施し、2学期の始まる直前だったので人権意識の向上に役立ったとアンケートで高い評価を得られた。
- ・このほか校務の効率化に努め、校外行事の手続き等の整理を行った。

〈教育支援グループ〉（教育支援グループリーダー）

- ・ポイントは2点ある。一つ目は情報発信で、ホームページの構成を見直した。更新頻度も増え、食育の頁も新設したが、トップページから辿りにくいなどアピールが不十分のところ課題として残っている。
- ・次に業務の効率化で、給食事務の効率化を行った。担任業務等の削減につながり、延べ300分かかっていたものが延べ60分にまでできた。これにより業務精選の意識付けが図れた。効率化が行えるものはまだまだあると思われるので、安全確保やミス防止を図りながら引き続きやっていきたい。

〈連携支援グループ〉（連携支援グループリーダー）

- ・地域等との協働では、学校公開を実施した。本校3日間・各分教室2日間で計130名が来校された。周知の範囲や方法を見直し、より多くの方に参加してもらえるようにしていきたい。
- ・学校管理・学校運営では、進路指導班の業務について、同窓会や保護者進路見学会の運営に関し、現在の職員の体制でも行えるよう見直しをした。
- ・高等部の実習における受注作業では、小学部の連絡帳の用紙印刷と裁断を行った。小学部の職員にとってありがたかった一方で生徒たちの学びにもなり、双方ウィンウィンの取組であったと言える。こうした取組が地域との連携の中で行える可能性があるのではと考えられる。

▼ (副会長)

- ・資料に関して、高等部のA3版資料とパワーポイントのスライドとで番号等の不一致があった。
- ・教育支援グループのスライドもA3版資料とで文言、内容が合っていないものがあったので作成時に注意をしていただきたい。スライドで伝えたいのであれば資料にも記載をしておいてほしい。

③教育活動に関するアンケート結果 (教頭)

- ・資料5～6、A4で5枚ある。
- ・【保護者アンケート】についてから説明する。質問は24項目あった。「そう思う」「少し思う」が大半だった。これらを肯定と解釈した。
資料では、肯定の割合が80%未満のものを3つ挙げてある。また、「今後に期待すること」では、11項目の中から3つまで上げてもらった。
5位までは昨年と同じ項目だった。第1位と第2位は昨年と同じだが、第1位は昨年よりパーセンテージが上がっている。「自立と社会参加」への期待には今後も応えていきたい。
- ・【教職員のアンケート】については、肯定が7割未満のものを6項目挙げてある。そのうち「3」についてコメントする。「話しやすく相談しやすい関係になっているか」との質問への回答が昨年より下がっている。これは、年度当初より欠員が続き余裕のなかったことが理由と考えられる。来年度も状況の改善は見込めないが、手当てをしつつ業務の改善等もして対応していきたい。また、同僚性も高めていきたい。
- ・【生徒のアンケート】は、高等部の生徒に実施した。本校は「紙面での回答ができる人」、分教室は当日登校した生徒全員に実施した。授業については比較的満足していることがうかがえる。一方で評価が低めだったものは、質問が答えづらかったためではないかと推察される。

④「切れ目ない支援部会」活動報告 (教頭)

- ・資料7では「各学部・分教室の交流報告」、資料8では「グループの交流報告をしている。今年度は対面での交流を全面的に復活できた。また、本部会も集まって協議することができ、持続可能な交流をテーマについて話し合った。
- ・交流することの目的を確認して次年度のことを話し合ったが、その中で、通常学級との交流と支援級との交流とでは目的が違ってくることを確認した。
- ・資料8は補足の資料になる。

⑤「農園活用部会」活動報告 (教頭)

- ・資料9を基に報告する。
- ・8月に特別支援教育課の指導主事が来校し動画を作成した。また、茨城県立の特別支援学校からの視察があった。
- ・「土づくり」では、厨房の野菜くずから腐葉土を作った。収穫した大根を2回給食に提供した。今後はできれば地域の感謝祭にも出店したい。
- ・「遊び場」の活動では、段ボールをもらえる商店街の店が増えた。「凧あげ」は、今後は学部

間の交流にもつなげていきたい。地域と協働することで、学校とは違った視点が教育活動のひろがりにつながっていくと考えられた。

【質疑応答】

(会長) このあと 10 分程度質疑の時間を取りたい。

まず私から、**資料2** マトリクスで全体の概要を示してもらっているが、「4センター的機能」と「5 管理運営」で、それぞれ継続して取り組むとなっている理由と今後について説明してもらいたい。

(副校長) 「児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。」が継続の矢印となっているのは、今年度職員たちは効率化を意識してやってきてはいるが、まだまだできることがあるのではないかという意識をもってもらいたいという意味で継続としている。

(会長) センター的機能の方はいかがか。

(連携支援GL) 資料8でお示ししているように、かなりやれていると思うが、校内の人材育成や新たな取組をさらに行っていきたいという前向きな気持ちを表した矢印だった。

(会長) 前向きなのは◎でよい。

(B委員) 本校では業務アシスタントに会計処理をすべて任せることにした。これにより職員の負担が大きく減った。

(管理運営GL) 本校でも会計の負担感は大きい。業務アシスタントにお任せしたいところではあるが、特別支援学校ではまるまる任せるには難しい面がある。アドバイスをいただいたので、やれる部分は取り入れていきたい。

(会長) 研修を行っているが、これらは保護者も参加できるのか。防災や人権については、共に学ぶことも大事である。

(管理運営GL) 担当の自分たちがまず研修することが必要だと考えている。

(C委員) 防災の研修の中にはBCP(事業継続計画)もあるか。保土ヶ谷支援も進めているのではと思うが。県から様式が下りてきているが、災害時後の継続した活動ができるような学校独自の取組(計画)あるか。

(A委員) 学校現場ではなかなかそうっていない。地域と連携しての訓練は行っているが、これは行政主体で行っていて、管理職など一部を除く一般の職員は承知していない。保土ヶ谷支援は県立なので、横浜市とどう連携していくのかという問題もある。

また、配慮が必要な子どもの避難の難しさもあり、そのための避難場所が十分周知されていない。

本校も3日目から再開できるよう計画しているが、高校や特別支援学校は県立なので、横浜市との連携など実際には難しいのではないだろうか。

(C委員) 私たちの施設は福祉避難所に指定されているが、学校も発災時は避難場所になるのか。

(B委員) 市立の学校はそうなるが、県立は異なる。

(A委員) 福祉避難所がどこにあるかわかっているだろうか。行政がもっと発信していく必要がある。

(会長) この問題については継続して考えていく必要がある。

(D委員) 権太坂小学校には瀬戸ヶ谷地区からも来る。そこから来た人がわかるだろうか。

(A委員) 本校には浜っ子トイレが設置されている。災害時に使用できるものだが、そういったことも行政と一部の職員しか知らない。

(教育企画GL) 人権研修会についてだが、これは県から職員対象に指定されるもの。講話型等指定され、その上で学校がテーマを決め講師を選任して実施している。職員の受講が担保された上で保護者が受講することは可能となっている。

(会長) ぜひ保護者も一緒に研修を受けるということを検討してもらいたい。

6 協議

▼重点課題について▼

(会長) 重点課題について審議したい。資料10の説明をお願いする。

(教頭) 就労支援についての取組としては、「企業と語ろう in ほどがや」、「支援級対象の企業見学会」の実施や「生徒向けの就労講話」「保護者対象の就労講話」などを実施した。進路担当教員と雇用部会との懇談会も行った。

これらで分かったことは、進路担当も学ぶということがもっとあった方がよいということ。進路担当にもわからないことがあり、進路担当も育てる必要があるということだ。

どんな力を育てたいか、どんな力をつけさせたいかを知る機会をつくりたい。ほどがやタウンミーティング（仮称）などを開催し、課題解決につなげたい。地域に向けて就労や進路支援に関する情報公開を行い、ニーズを拾い上げて開催したい。

(会長) 学校運営協議会から発信した初の取組になる。担当いただいたE委員と副会長から発言をしていただきたい。

(E委員) 話をする場を設けていただき感謝する。ほどがやタウンミーティングは素晴らしい取組だ。現在一般就労するのは20数%であるが、この数字を労働局も知らなかった。今後法定雇用率が2.7%まで上がる中でこのような状況にある。状況を変えていくための第一歩としてのタウンミーティングであると考えている。

(副会長) 自分自身も勉強になった。保土ヶ谷支援学校のミッションにある「就労支援」は「進路支援」と読み替えた方がよい。また、センター的機能を充実させるために地域の保護者も集めるといのは大賛成である。ぜひやっていただきたい。

(会長) 進路支援という枠組みは、今後も継続していくということで、委員の皆よろしいか。

(A委員) 感想になるが、運営協議会の提言が年度内に実現するのは素晴らしいと思った。私も話を聞きたかったので、次年度もぜひ行ってほしい。

小学校の保護者は、進路のことはまだわからない。その日のことで精一杯となっている。

(会長) 進路支援については、今後も継続テーマにしていくということでよろしいか。

(委員) 皆了承

▼次年度に向けて▼

(会長) 追加配付された資料について説明していただきたい。

(校長) 「保土ヶ谷支援学校のミッションについて」だが、これは教育長から4年に1度示されるもの。キーワードとなる「自立と社会参加」「就労支援」「小中校一貫した教育」「主体的な活動」「センター的機能」は今回も変わっていない。今回はこれらに「地域との連携」が加わった。また、一人ひとりの障がいの状態等の「等」が入った。障害そのものだ

けでなく、性格や家庭の状況も含め支援していくことを示している。

(会長) この後、校長を先頭に中期目標を定めていくことになる。これに関してご意見をいただきたい。

(A委員) 本校も地域の学校であり交流がある。センター的機能の実施で障害理解への協力もしていただいている。今後進路支援にもご協力願いたい。

(B委員) センター的機能では、本校には特別支援学校の教員を目指す生徒もおり、その生徒たち向けの実習もお願いしている。これから一般の生徒との交流も進めていきたい。アセスメントは、本校でも以前に一回していただいている。おかげで卒業後につながられている。本校にもいろいろな特性を抱えている生徒がいるので、今後も支援をお願いしたい。これから特別支援学校の役割は重要になっていく。

(C委員) 私たちの施設も4年に一度計画づくりをしている。計画したものを実行していくのが大変で、やればやるほど負担が増えていく。

センター的機能としては、障害のある方の拠点になる場所として指定されている。共生社会では、連携し頼りあうことが大切で、楽しみながら行っていくことも大事になる。地域との関わりは共通しているので情報共有させていただきたい。

(E委員) 昭和、平成、令和と続いてきた歴史はすばらしい。この資料作りは大変だったと思う。少し手を抜いても見やすくしてもらえればいいと思う。行っている内容はすばらしい。情報交換会もぜひ行ってもらいたい。そしてやるからには軌道に乗せてもらいたい。区との連携も取ってもらいたい。

(F委員) 防災に関しては、行政のやることと学校がやることとで異なる部分があり、相互で交流が必要になる。そして考え方の違いを互いに理解する必要がある。

(D委員) 就労支援がすばらしい。共生社会の実現に向けての地域との連携もよい。農園活用部会の時に、地域からも手伝いに参加してもいいのではと思った。かえって職員の負担にならなければだが。11月と3月に行われているフェスティバルに保土ヶ谷支援の作品が出せるとよいと思う。前に行ったことのある太鼓もまた見たい。

(G委員) いろいろな取組をやっていただいている。さらに新しい取組も行っていていて保護者としても頼もしい。一方で職員の負担増になり弊害も出てきていないだろうか。各学部・グループの業務の効率化や選択と集中が大事になる。「連絡帳の印刷」は解決に向け一つのカギになるのではないかと。教員と生徒の双方に得るものがあるのがよい。地域との連携の中に保護者もボランティアとして入ってきたい。強制は抵抗があり、悩んでいるところで、楽しみが必要だろう。

(副会長) 50周年をまもなく迎える。そのような保土ヶ谷支援学校はセンター的機能をさらに地域に果たすべきと考える。来年度は4年に一度の目標策定ができ、校長の教員人生の集大成ともなる。全力でサポートしていきたい。

(会長) 校長からも委員の一人として一言いただきたい。

(校長) 新しいミッションでは、地域が学校にとっても子どもたちにとっても必要なことと考えている。学校と地域がウィンウィンになるようやっていきたい。

(会長) 出された提言に基づいて、校長先生の下取り組んでいただきたい。

学校運営協議会もバックアップしていく。必要な協力は惜しまないで進めていく。

7 事務連絡（事務局：副校長）

- ・いろいろご意見いただき感謝申し上げます。次年度に向けて準備していく。
次年度も委員をお引き受けいただけるとありがたい。

8 副会長あいさつ

- ・教職員のアンケート回収率が97.3%となっている。他でも委員をやっているがこの数字は見
たことがない。項目の16.17.18の数字が向上していてありがたい。保護者のアンケートで
は、肯定的な評価が低かったものが3つしかなかった。これもありがたいこと。数値も上が
っている。
今年度の活動を高く評価をして差し上げたい。

9 会長あいさつ

- ・高い評価が共有できてよかった。以上で会を終了する。

以上